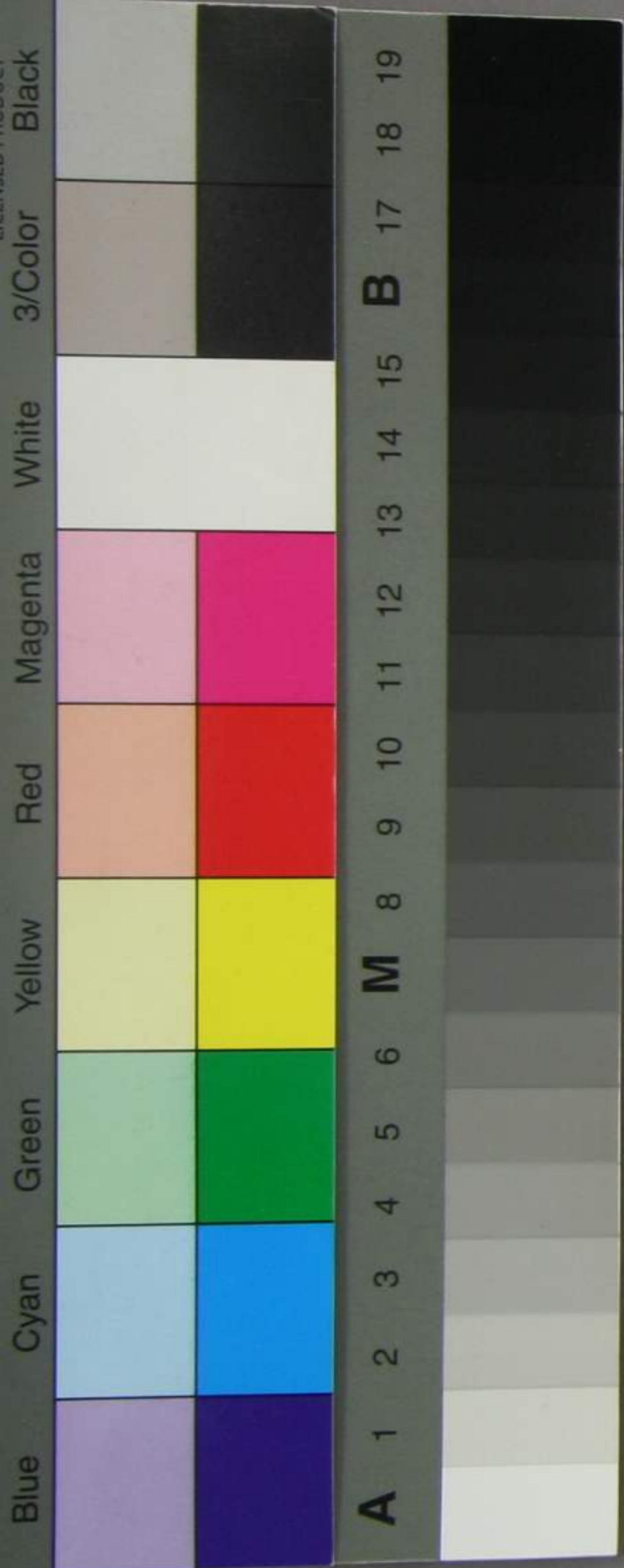


414
A 4228



御會日議ニ於テ文部省定額ノ件御達
 ノ節下官ヨリ大藏卿上申ノ金額ニテハ文部
 現在施設ノ事業ヲ維持スルハ能ハス況ニ
 從来ノ方法ヲ改良シ規制ヲ嚴肅ニ其
 他至緊要至切欠クヘカラサシ事業ヲ擴張振起
 スルカ如キハ決シテ實施スル能ハス此事情
 ヲリシテ御請スルヲ難シトス
 然レ氏右ノ外前大藏卿ノ建議ニ係ル工部大学
 司法法学校ヲ文部省へ合併ノ件ニ至テハ学
 政及ヒ理財上共ニ大ニ賛成スヘキ美譽ナシ
 ハ本議行ハルニ於テハ之ニ連帶シテ請求
 スヘキ件アルヘシ且別ニ文部省ニ於テハ

天
 正
 十
 一
 年
 四
 月
 天
 限
 侯
 爵
 邸
 寄
 贈



従来収入金ノ儀ニ付紛紜ノ在ハリ尤政府
ハ具陳中ノ事ニ係ル
右ノ兩件請求スルカ如ク乞裁ヲ得ルニ於テ
ハ政府今回ノ御計畫ハ固ヨリ竭力賛助セ
サレ可ラサレトモ得サレノ儀ナラハテ文部
經費困迫ノ極ニ際ストモ謹テ却請ス
ルニ至ルヘシ

所陳ハ斯ノ如クトモ其事理甚々錯雜
セルニ由リ今復左ニ詳記シテ憫請仕俟
一ハ學子補助金配付ノ額ハ明治八年度七拾万
四ト定メシヲ同十年度ニ貳拾七万五千四ヲ減
シテ四拾貳万五千四トシ同十二年度ニ又六万
三千四ノ余ヲ減シテ三拾六万壹千四ノ余トナセリ

爾來教育事務日ニ繁ク隨テ諸般費目ノ
夥多ニ涉ルヲ以テ已ムヲ得ス來十三年度ニ
於テハ拾六万壹千四ノ余ヲ減シテ貳拾万四トナ
スニ至レリ
此十三年度ノ配付數ヲ以テ八年度ニ比照ス
レハ凡三分ノ二強ヲ減縮セリ然レニ一般
學事ノ漸次擴張スルニ從ヒ普通教育補
助人並配付ノ外ニ於テ至緊至要ニシテ
手ノ法一日モ忽諸ニ付ス可ラサレ事業輕
淡ノ時機ニ際スルヲ以テ彼此ノ輕重ヲ計
畫ニ宜ク此ヲ以テ段ニ轉用スル等ノ方略
ヨリ已ムヲ得ス十四年度以降ハ學子補助金
今ノ方法ヲ以テ配付スル儀ハ全ク之ヲ廢ス

ルノ議ニ涉ラサルヲ得ス教育令ノ改正行ハルニ
先般ノ見込ハ其略ヲ記シテ

抑征米カ子校補助金ノ與手タニ暗ニ地方官カ
学事獎勵ノ具トナリ其他教育上直接益分ノ
功用ヲハハ明カナリ故ニ之カ減殺ヲ為スハ決シテ
故王ムヘキ所ニ非スト虽モ如何セン文部經費ノ
減額ニ遭ヒ或ハ教育上必需ノ費項増加等ニ
テ財務ノ困迫ナリ其恐ヒサレ所ヲ忍ビ已ニ本年
一月中同定ノ上十二年度ノ分ハ終ニ貳拾万四
ノ額ニ減シ偏ク之ヲ地方ニ示達セシメ人テ又
十三年度ノ配付ヲ以テ中止全廢ニ付スルカ如
キハ其影響ノ反射スル處復タ如何ナリ損害
ヲ来サンモ測ル可ラス畢竟策ノ得タルモノ

ニ非サレナリ

況ンヤ十三年度地方税ノ豫算ハ已ニ貳拾万四ノ
補助金ヲ保算ニ會議ノ決定スル所トナレハ
一朝補助金中止ノ令アルニ於テハ之ヲ増徴スヘ
キノ途ハ實ニ容易ナラス恐クハ地方教育上
其措置大ニ錯愕スル所アラントス尤教育令
中毎年補助金配付ノ明文ヲ載セ又十三年
度配付ノ額ハ已ニ示達セリト雖モ然レモ政
府ノ都合ニ因リ臨時之ヲ左右スルニ於テ敢テ
教育令ニ對シ其障礙如何共スヘカラサルノ
大事ト云フニアラサレハ此一息ニ就テハ強テ
陳弁セザルモ可ナリ唯地方教育實際上ノ
影響如何ヲ恐ルルノミ

且夫教育令ノ主旨模稜胡塗ノ不充分ナキニ
非ザルヨリ地方官ヲ始メ人民ニ至テモ生々
本人之ハ任地主義ニ成ルモノト認メ其誤リ
終ニ自由教育ノ文字ヲ造リ出スニ至ル
此ニ於テカ人民ハ教育ヲ抛擲ニ付スルノ思
念ヲ生シ地方官ハ干涉ニ憚リテ放任ニ
流レシトスルノ非アルヲ以テ到底教育令ノ
改正ヲ要スルヲ目ノアタリ文部省ニ於
テハ苦心焦慮豫メ之ヲ提防ヲシ大ニ彌
縫スル所アリテ漸ク旧ニ復サントスルノ夾
ニ際シ更ニ貳拾万圓ノ補助金ヲ全廢スル
ニ至ラハ忽チ前日ニ教層ヲ起ルノ感觸ヲ
生シ靡然トシテ教育抛擲ノ一點ニ傾向シ

文部ノ苦心モ水泡ニ帰シ殆ト底止ス可ラザル
ノ景況ニ立到ルヘキハ瞭然トシテ明カナリ
前述フル所ノ事由アルニ據リ他日教育令改
正ノ上ハ十四年度以降更ニ一段ノ良法ヲ以
テ之ヲ全廢ニ歸スルモ十一年ニアリテハ已
ムヲ得ズ姑ク其若干ヲ減シテ教育上至緊要
至要ノ事業ニ轉用シ其若干ヲ存置シテ以
テ普通教育ヲ將ニ衰弛セントスルノ人テ白
ニ維持セザルヘカラス具費項左ノ如シ
小學補助金貳拾万圓
但此内若干ヲ補助金トシテ存置シ其他ノ
若干ヲ以テ實業職工學ヲ獎勵スル法ヲ起
シ道德ノ上進ヲ獎勵シ編書増加ノ法ヲ立

テ教員退養料ノ制ヲ定メ大學ヲ始メ各
官立學校經費不足ノ分增額ヲ政府へ具陳ハ亦ニ
工部司法兩校經費不足ノ小部_分ヲ補充
スル等ノ諸項へ轉用
右ノ如ク乞裁ヲ得ハ幸シテ現在ノ事業ヲ
維持スルヲ得ルノミナラス及令其擴張振起ノ
事業ハ為シ能ハサレモ中ニ就テ至緊至切
已ム可ラサルノ改良法ヲ實施スルヲ得ヘ
シ

一工部大學院司法法學校ヲ文部ノ所轄ニ歸
セシメラレハ於テハ兩校ニ支消スヘキ費額
ハ悉皆政府へ還納シ一錢ヲモ帶ヒス赤体ニ
テ文部へ屬付スヘシトノ御主意ト相見ヘ候

へ氏今日文部實際ノ現状ニテハ之カ為ニ大
學若クハ自餘ノ直轄ニテハ之カ為ニ大
中止スルニ非サレハ斯ノ如キ重荷大費ヲ負
擔スル能ハス若シ夫レ不得已文部直轄ノ學
校ヲ廢置スルニ由リテ隨テ學校財政共ニ損害ヲ
來タスハ論ヲ俟タス及令其損害ヲ顧ミシテ
之ヲ廢置スルモ十三年一度ニ在リテハ許タノ
費額ヲ減スル能ハサレ一難事アリ即チ外
國教師ニハ各條約アリテ半途ニシテ解約ス
ルモ若干ノ金額ヲ交付セサルヘカラス例ハ數
年若クハ數月ノ給額ヲ交付シ加之巨多ノ旅
費ヲ仕拂フカ如キ一時非常ノ出費ヲ要シ
殊ニ學校ノ經費ハ概シテ教師ノ給俸等

ニ支消スル処過タタレハ到底此業ヲ廢シ
此費ヲ殺キテ彼費ニ充テ以テ相償ハシメ
ント欲スルモ得ヘカラサル也人テ工部司法
兩省ニ於テ該校ニ費ス所ノ費用豫算書
ヲ覽スルニ一十年合計拾六万一千四百圓余
ニシテ其他重任ノ給料并諸般ノ支拂セシ
費項ヲ併算セハ一十年幾ント貳拾万圓近
シト聞タリ然レモ文部省ニ合併シ一管理ニ
歸スルハ煩復累重ヲ除去シ隨テ若干
ノ費用ヲ減シ得ルノ事由ハ別紙ニ瞭悉
ナリ人テ仮令豫算費額ノ三分一ヲ減シ得
ルモ尚ホ拾万余圓ヲ要ス此巨額ノ費用ハ
勿論文部一ノ定額内ニ於テ之ヲ支出スル能

ハサハ前陳ノ事由ヲ明ラナレハ故ニ前
段ノ拾六万一千四百圓ト看做セシ半額強貳拾
万圓ニ近キモノト看做セシ半額弱ニ當ル高
即九万圓ヲ交付セラルレハ他ノ費額ハ文
部ニ於テモ非常ノ節儉ヲ尽シ以テ之ヲ支
弁シ百方經營ノ法ヲ立テ以テ之ヲ管理シ
テ兩校生徒ノ負數ヲ減スルナク其成果ニ至
リテモ曩日ニ優ルコトアルモ敢テ爲ラサルノ
功ヲ收ムルニ而シテ政府於テモ現ニ右ノ半
額ノ餘贏ヲ他途ニ充テラレハノ便ナルハ
若シ夫レ兩校ニ附帶シテ九万圓ノ金額ヲ
交付セラルレサルハ此ニ美譽ヲモテ一朝
阻滯セシムルハ遺憾ノ至ナリト云モ十三

年度ニ於テハ奈何トモ之ヲ負擔スル能ハサ
ル也

一 学校収入金ハ現ニ官立学校ノ定額内ニ組
入レテ支用シ来ルモノヲ断然其方法ヲ
革メ悉ク大蔵省へ還付セリトス然ルモ
官立学校ニ於テハ其定額ノ裁分ヲ減セリ
タルト同接ニシテ已ニ着手セシ事業ヲ縮
ムルノ外地策ヲ以テ故ニ二十年度ニ於テ收
入金ヲ拂出セシ費額ニ相當セシ金負
ヲ十年度ニ於テ文部ニ増付セリ而シテ
学校ニ収ムル所ノ収入金ハ毎年度大蔵省ニ
納付スルノ規則ニ循リキハ實際其名稱
ヲ易ルノ点ニ止リ却テ會計法ヲ一歸

スルノ利益了ルヘシ本件ハ既ニ政府ニ請願
中ニ係ル此際一併ニ停裁可クナリ仰ク
前條條述個情スル処ノ要項ヲ約言セハ左ノ
如シ

小学補助金貳拾万圓ノ内若干ハ已ムヲ得
ス其残余存置セリ他ノ若干ハ教育上至
緊至切ノ費項ニ轉用セシメラシ度件
工部大學習习法学校ヲ文部へ合併セ
ラレニ付兩校ニ於テ支消スヘキ經費ノ
半額ヲ政府ニ納付セシメ其他大半即チ
九万圓ヲ文部へ交付セラレ度件
從來官立学校ニ於テ定額中ニ組入レ支
消スル処ノ収入金ハ毎年度大蔵省ニ悉皆

納付レ十二年度ニ於テ支消セシ費額ニ
相當セシ人並負人ヲ十三年度ニ交付スル
度件

右件ノ外ハ御達ノ文体等ニ関シテ猶請
願スル所アリヘシト虽モ畢竟細微ノ事
ニ涉ルヲ以テ別ニ具陳仕ルヘク候也